



奈良教育大学
Nara University of Education

環境報告書 2021

Environmental Report



I 目次 Contents

I	目次	01
	トップメッセージ	02
2	環境方針	
	基本方針	03
	作成方針	04
3	大学の概要	
	高畑団地の所在地1	05
	高畑団地の位置	
	附属の概要	
	高畑団地の所在地2	07
	佐保田団地の所在地	08
	各団地の概要	09
4	環境配慮実施計画	
	2020年度の実施計画・評価	11
	2021年度の実施計画	
5	環境にかかわる活動	
	環境負荷データ・エネルギーの使用状況比較	13
	クリーンキャンペーンの実施について	22
	SDGsの達成に関わるESDの推進	23
6	ダイバーシティにかかわる活動	
	ジェンダー平等の実現にむけて	25
	ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言	26
	ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言(English)	27
	ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言(中文：簡体字)	28

表紙の写真

専攻科(教育専攻)を設置



1962

次世代教員養成センターを設置



2013

大学院教育学研究科(修士課程)を設置



1983

奈良女子大学と法人統合へ



2021

写真中央に位置するのが本学の高畑団地となります。春日山と高円山との扇状地にあり、構内全体が緩やかな傾斜面に立地しています。南北で約3m、東西で約15mの高低差があります。用途地域としては、第一種中高層住居専用地域、15m高度地区の制限が含まれています。そのため、4階以上の高さの建物は2棟(3,513㎡)のみ存在し、古都奈良の歴史ある緑豊かな自然の中に位置する大学です。



◆ 学長挨拶

政府は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル(温室効果ガス排出実質ゼロ)を目指すことを宣言しています。今、その実現に向け、知の拠点である大学に大きな役割が期待されています。

本学は、日本で初めてのユネスコスクールに加盟(2007年)した大学として、ユネスコが推し進めている理念の学校現場での実践に向けた取組を行っています。活動目的として、「ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」及び「地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと」を掲げ、奈良という自然および伝統文化に恵まれた地域にある大学として、環境教育、文化教育を推進し、さらに、世界の各地域および学校との連携を進めESDを核とした教員養成の高度化など様々な活動を展開しています。



また、教員養成大学である本学は、カーボンニュートラルの実現に必要な人材育成に貢献していく観点から、約200の国公立大学、大学共同利用機関、高等専門学校、研究機関等が参画する「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション(連合)」(2022年設立)に参加しています。

この度、「環境報告書」という形で、本学の様々な環境に関する取組みとその成果をまとめ、環境配慮実施計画からダイバーシティにかかわる活動までを紹介しています。地球規模の問題を、キャンパス整備だけでなく、地域の人材育成の核となる本学がどのように捉え、教育に実践していくか？そのようなことが問われているのだと思います。今後も、このような報告書の作成に留まらず、さらに環境に配慮した教育研究環境の充実、また、単なる環境教育に留まらないESD教育等を展開していく所存です。

国立大学法人として、2022年4月からは、新しく国立大学法人奈良国立大学機構の下、奈良女子大学とそれぞれ異なる強みを相互に提供しあい、これまでにない新しい国立高等教育機関として、教育・研究面の機能強化を図ります。引き続き、教師教育の拠点として、教養に裏打ちされた豊かな人間性と高度な専門的力量を備え、学校教育の場で活躍できる高度専門職業人としての教員の養成に努めていきます。

国立大学法人奈良教育大学長 加藤 久雄

2 環境方針 Environmental Policy

◆ 基本方針

■本学は3つの柱(大学の特色)として、「1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の研究」があります。その中心に、「古都・奈良の中心に位置し、豊かな自然や世界遺産を含む多くの伝統文化遺産に囲まれています。また、奈良国立博物館・奈良文化財研究所との連携によって、奈良で学ぶ喜びを実感しながら、感性を磨くことができます。」とありますように、教育研究やあらゆる活動におきまして、「人と対話し、環境や世界遺産と対話すること」を通して、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めながら、教員養成系大学として持続可能な開発目標の実現を目指す大学として、地域や社会へ貢献しています。

- 省エネルギー、環境汚染の防止など、全ての環境負荷の低減に向けて持続可能な取り組みを展開します。
- 学術的価値の高い遺物が多数出土するキャンパス環境の実現に向けて、緑化整備、環境美化、環境保全等において、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
- 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を策定し、大学の社会的責任を果たします。
- 持続可能な開発目標のひとつとして、大学における環境情報の整備・提供に取り組めます。
- この方針は、大学のホームページを活用し、学生・教職員に周知するとともに広く社会にも開示します。



理科1号館北側 吉備塚古墳



理科1号館西側 保存緑地



◆ 作成方針

■「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」(環境配慮促進法)の施行を機に、2021年6月に公表された「第4期中期目標期間へ向けた国立大学法人の在り方についてー強靱でインクルーシブな社会実現に貢献するための18の提言ー」におきまして、カーボンニュートラルの推進をはじめとする地球環境規模の課題を解決するとともに、高度にレジリエントで持続可能な社会の構築にこれまで以上に貢献していく旨、決意を表明されました。

本学としては、事業者の責務(第四条)として、事業活動に関し、環境情報の提供を行うこと等が努力義務として求められ、2021年12月より環境報告書を作成しました。

第3期中期目標・中期計画における施設設備の整備・活用等に関する目標におきまして、省エネルギー対策を行うため、構内の段差解消及びLED照明器具への更新等を行うことで、安全かつ環境にも配慮した計画的な施設整備を取り組んでまいりましたが、なお一層の努力と独自の取り組みが必要であると考えています。

低炭素社会の実現に向けて2030年までの10年間で省エネ技術で一次エネルギー消費量を50%以上削減するZEB Ready(ゼブ レディー)の取り組み期間とし、創エネ技術を加えて100%以上を削減するZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)を見据えた先進建築物の施設整備を含めたキャンパスを目指し、持続可能な社会の創造に寄与しうる教育環境を推進・報告するものとして、今後も能動的に取り組んでいきたいと考えています。



テニスコート東側 保存緑地

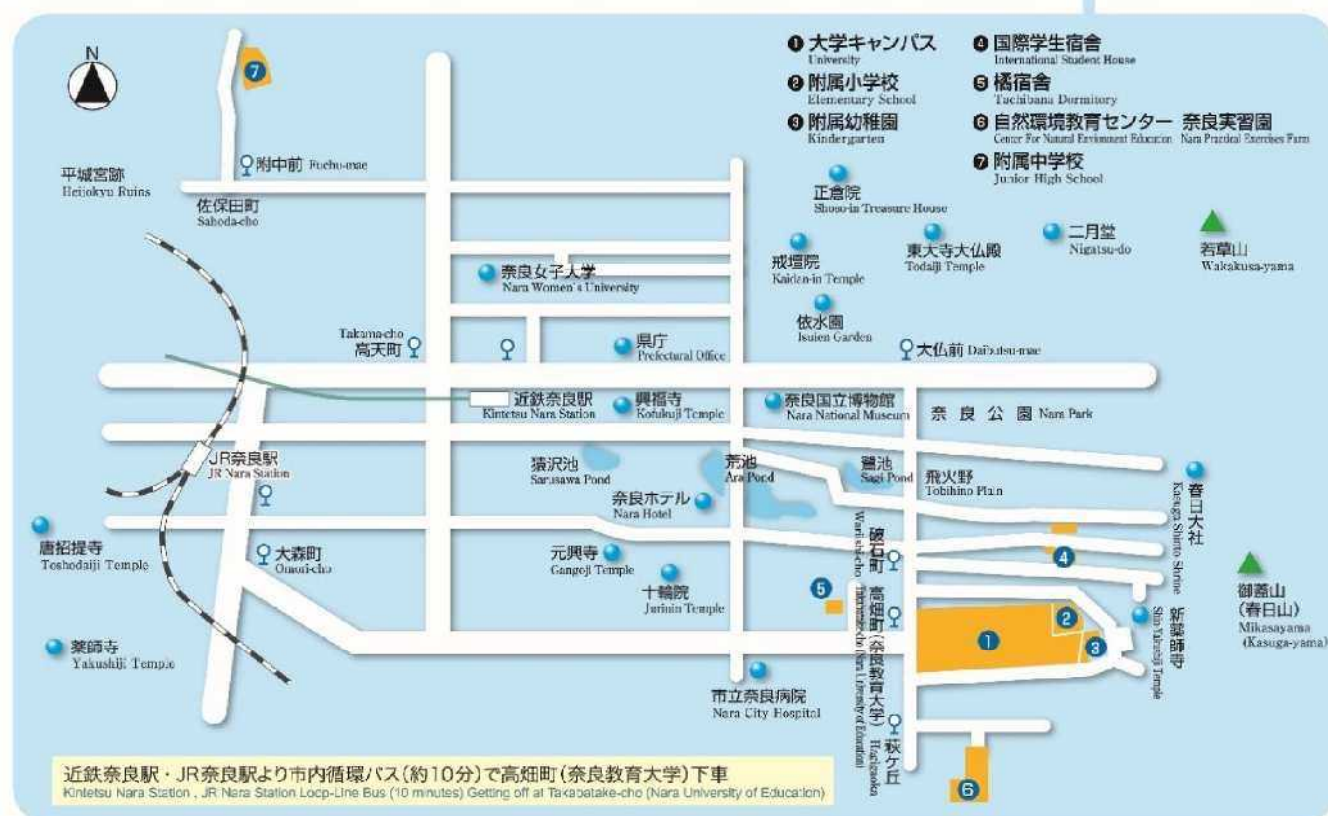
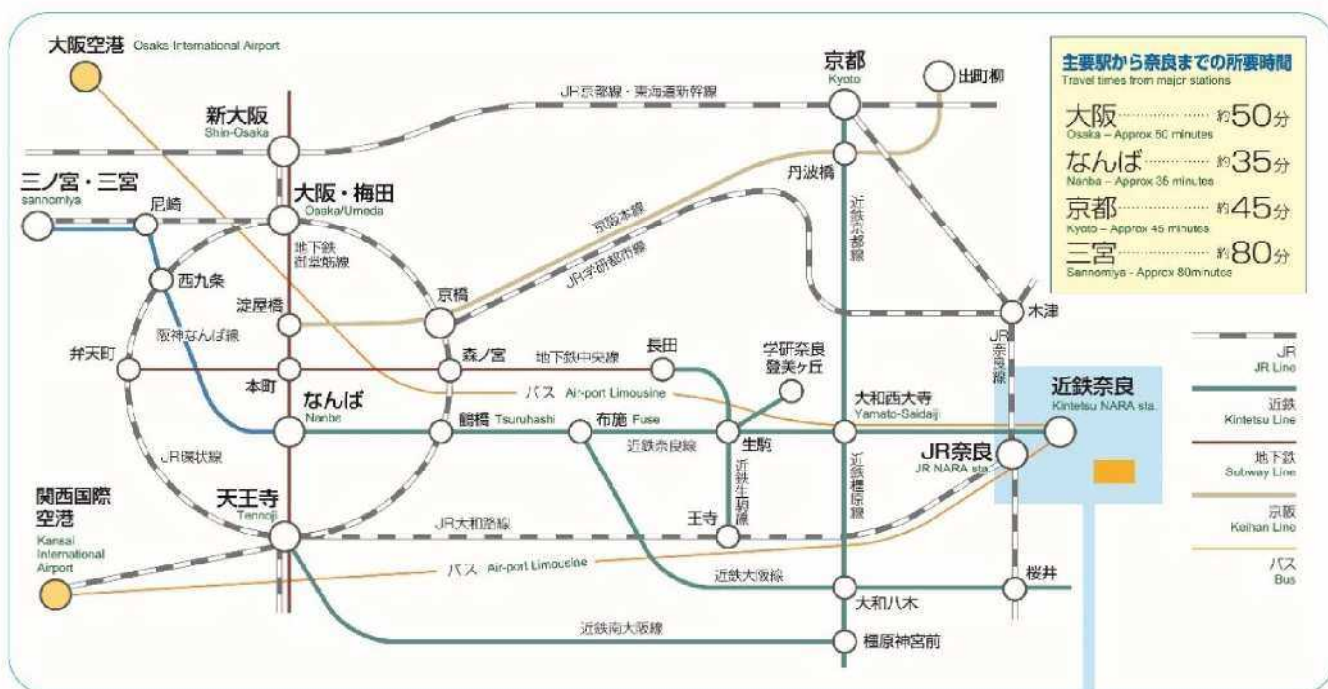


附属小学校東側 保存緑地

3 大学の概要 Summary

◆ 高畑団地の所在地1

- 創設 1888 年(明治21年)7 月 31 日
- 所在地 奈良県奈良市高畑町
- 学部等の構成 教育学部
- 関連施設 図書館 各センター 附属学校園
- 構成員 233名(役員等・教職員)
- 敷地面積 1,809,074㎡(高畑団地:147,060㎡)
- 建物延面積 58,840㎡(高畑団地:43,884㎡)
- 施設数 93棟(高畑団地:64棟)



大学の概要 Summary

◆ 高畑団地の位置

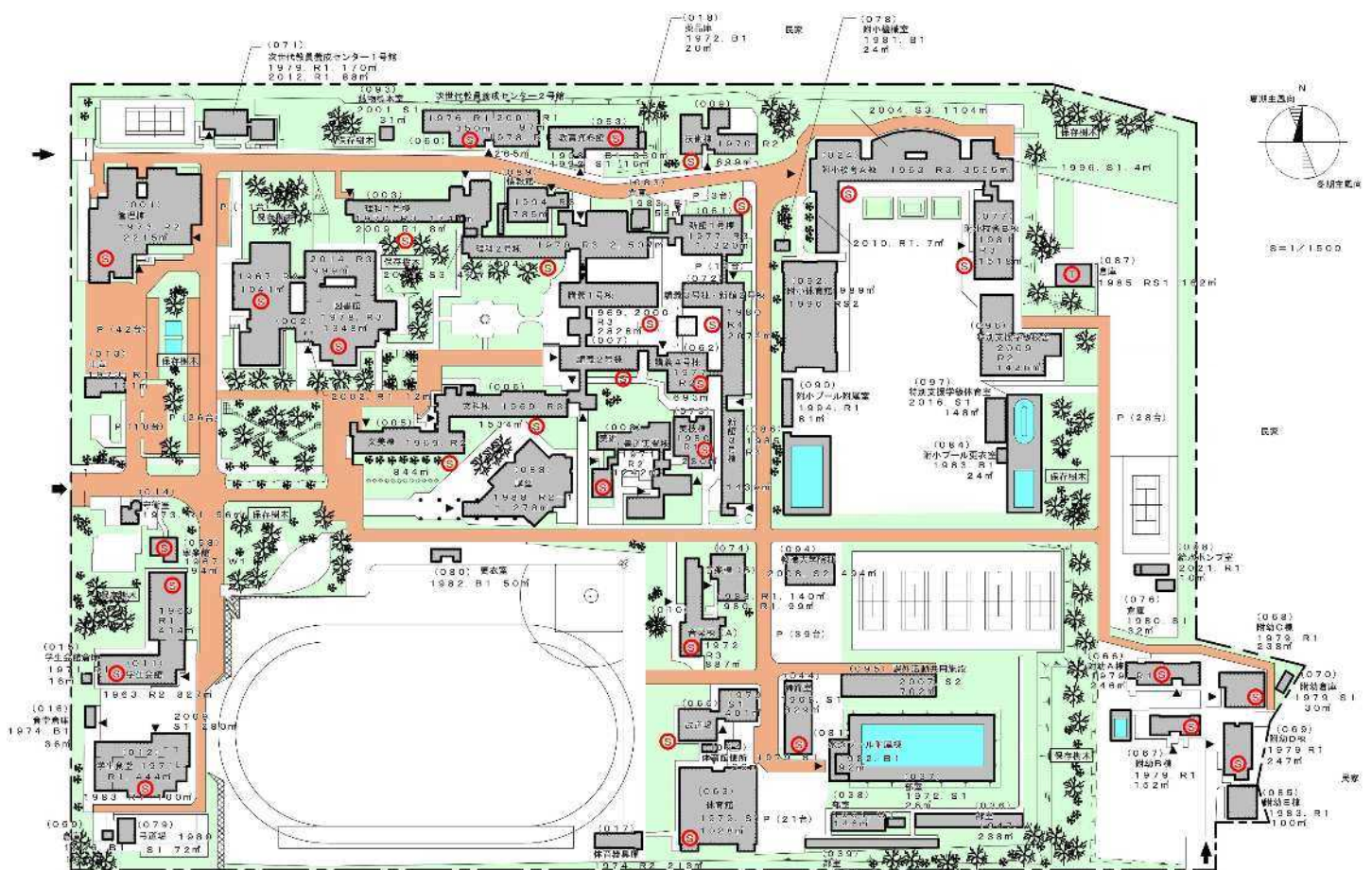
高畑団地は敷地147,060㎡を有し大学施設、附属幼稚園及び小学校を含めた複合施設であり、敷地周辺には奈良公園や新薬師寺、春日山を望む歴史と文化を育む地域に位置し、昭和33年に旧陸軍38連隊と米軍施設跡地に移転することとなりました。敷地はそのため大学施設と附属学校(幼稚園、小学校)のゾーンに区分され、大学施設ゾーンは①教育研究②教育支援③体育施設④課外活動⑤福利厚生⑥管理共通⑦共通に区分しています。

主要道路・駐車場等

構内の車両は正門に限定して入構や時間制限を行っています。一般車両は北側の外周道路を通行可とし、工事用等の大型車は講堂南側を必要時に通行を許可しています。特に構内は小学校の児童が通学することから、通用門(構内北側)を利用し安全を確保しています。駐車場は約190台が収容が可能で、構内には自動ゲートを設置し、通勤は許可制として学生には許可していません。自転車やバイクは指定場所に駐輪してもらい、構内の事故防止や交通マナー、歩道の整備やバリアフリー等の安全対策を図っています。

保存遺跡、建物、緑地等

構内には文化遺産としての遺構であります吉備塚古墳(江戸時代)や平成20年10月に新薬師寺旧境内跡地の金堂と見られる遺構が検出され、教育研究上の歴史文化・教育エリアとして活用することとしています。また建物では、米軍の煉瓦造(明治41年建設)が教育資料館として利用されるなど、歴史的な施設を始め、旧弾薬庫、高射砲台跡、酒保への階段等戦争遺跡も多数残されています。保存緑地では各所に桜、椎、木柵の大木が残り、春日山の裾野に育つ植物群が教育研究に活用されるなど教育と伝統・文化の発展に活用されています。



高畑団地 構内配置図

3 附属の概要 Summary

◆ 高畑団地の所在地2

- 創設 1889 年(明治22年)
- 所在地 奈良県奈良市高畑町
- 構成 附属小学校 特別支援学級
- 関連施設 体育館 プール
- 施設数 8棟 学級数 21(18+3)

- 創設 1927 年(昭和2年)
- 所在地 奈良県奈良市高畑町
- 構成 附属幼稚園
- 関連施設 プール
- 施設数 6棟 学級数 5(1+2+2)



附属小学校(高畑団地)



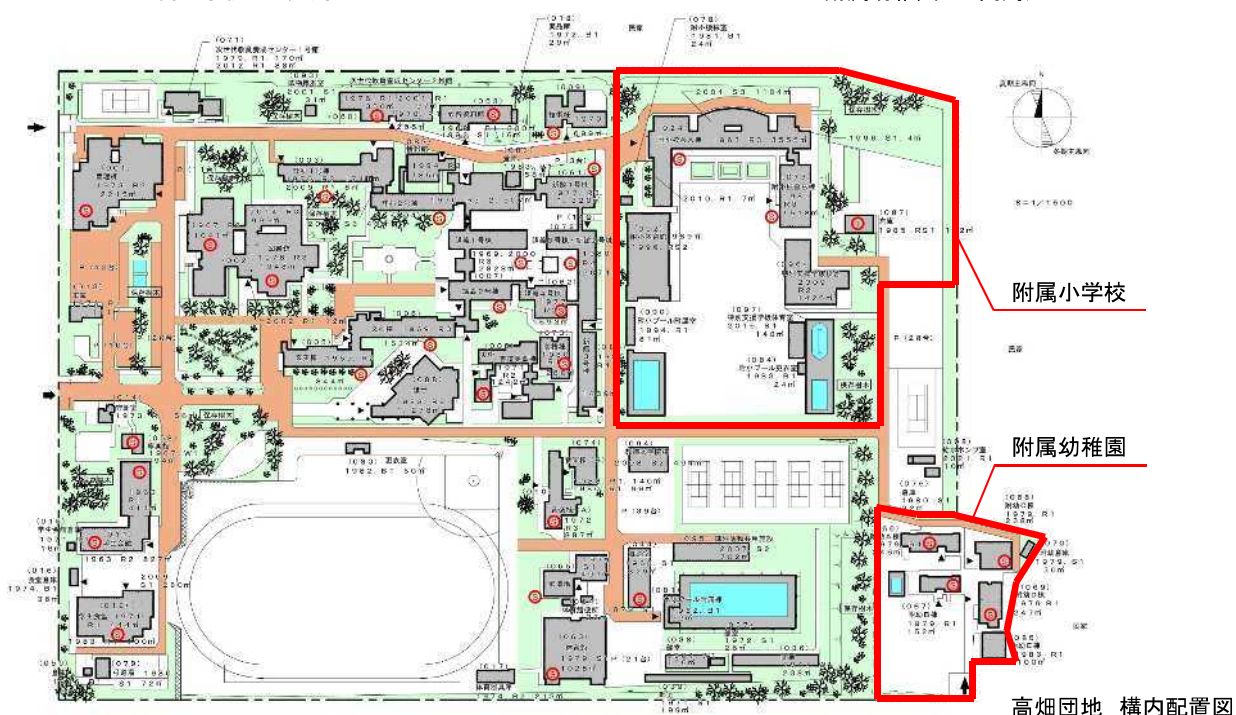
附属幼稚園(高畑団地)



附属小学校 正門周辺



附属幼稚園 正門周辺



附属の概要 Summary



◆ 佐保田団地の所在地

- 創設 1947 年(昭和22年)
- 所在地 奈良県奈良市法蓮町2058-2
- 構成 附属中学校
- 関連施設 体育館 プール
- 構成員 30名(教員その他職員)

- 敷地面積 30,079^m₂
- 建物延面積 5,787^m₂
- 施設数 9棟
- 学級数 15(12+3)



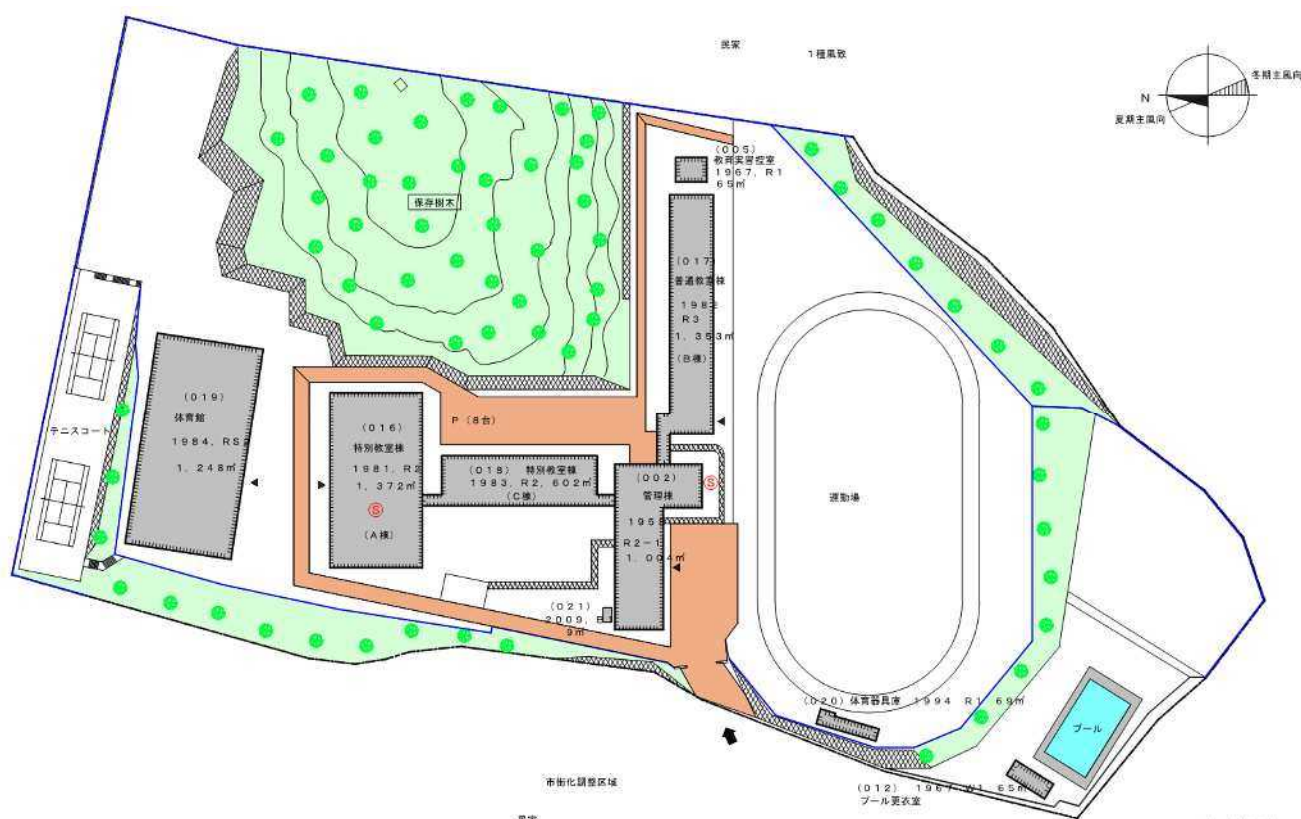
附属中学校(佐保田団地)



附属中学校 正門周辺

3

大学の概要



佐保田団地 構内配置図

3 各団地の概要 Summary

◆ 各団地の所在地1

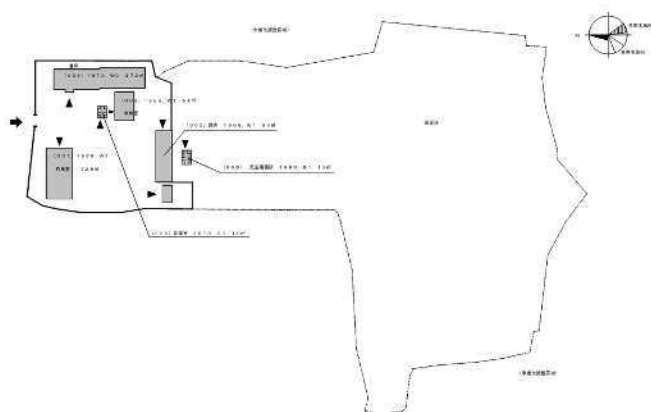
- 創設 1966 年（昭和41年）
- 所在地 奈良県奈良市白毫寺町
- 構成 自然環境教育センター
- 関連施設 作業室 倉庫
- 施設数 6棟



奈良実習園(白毫寺団地)



奈良実習園 正門周辺



白毫寺団地 構内配置図

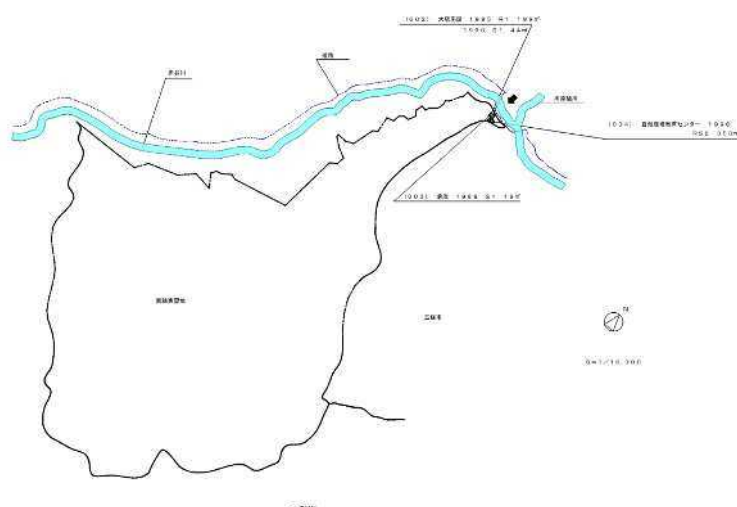
- 創設 1959 年（昭和34年）
- 所在地 奈良県五條市大塔町赤谷
- 構成 自然環境教育センター
- 関連施設 管理棟 倉庫
- 施設数 3棟



奥吉野実習林(大塔団地)



奥吉野実習林 管理棟



大塔団地 構内配置図

各団地の概要 Summary



◆ 各団地の所在地2

- 創設 1959 年（昭和34年）
- 所在地 奈良県奈良市高畑町1252
- 構成 国際交流会館
- 関連施設 寮施設
- 施設数 2棟

- 創設 1960 年（昭和35年）
- 所在地 奈良県奈良市紀寺町834
- 構成 学生寄宿舍（橘寮）
- 関連施設 寮施設
- 施設数 2棟



国際交流会館（上高畑団地）



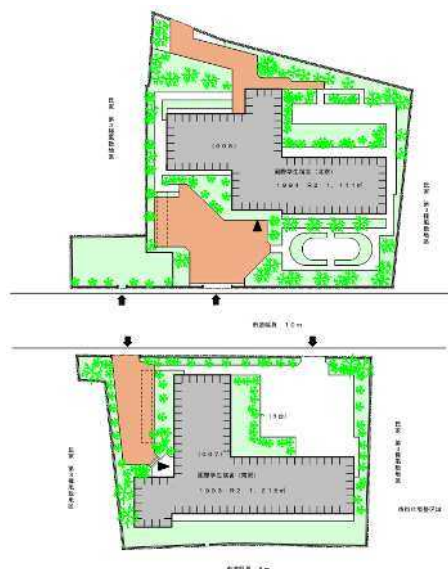
学生寄宿舍（紀寺団地）



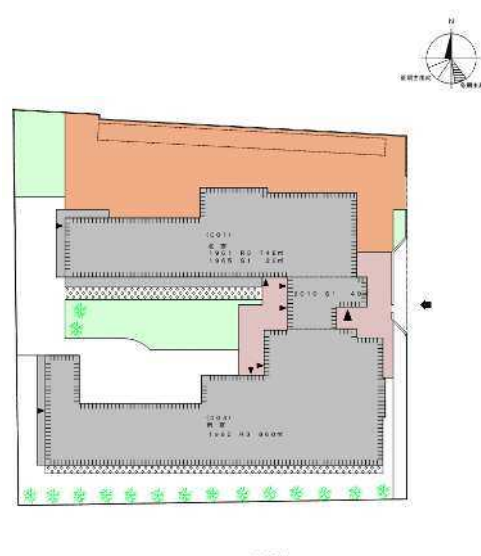
国際交流会館 正門周辺



学生寄宿舍 正門周辺



上高畑団地 構内配置図



紀寺団地 構内配置図



4 環境配慮実施計画 E.Consideration Implementation Plan

◆ 2020年度の実施計画・評価

■奈良教育大学の環境配慮の目標は、「エネルギーの使用量・温室効果ガスの削減」、「上水使用量の節減」、「用紙使用量の削減」、「地域貢献」、「奈良SDGs学び旅における「SDGs」について」「ゴミの一斉収集・植栽の剪定」の項目を実施計画として進めてきました。

【自己評価の◎は達成、○は一部達成、×は未達成を示します。】



エネルギーの使用量・温室効果ガスの削減【自己評価 ◎】

- エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令に従い削減します。
- 老朽化した空調機器を更新するときは、高効率機器の採用を推進します。
- 照明器具を更新するときは、LED化を中心に省エネに配慮した機器の導入を推進します。
- 電子掲示板などで省エネの啓発を実施します。



上水使用量の節減【自己評価 ◎】

- 水回り(トイレ・手洗い場)などを改修(更新)するときは、節水器具の導入を推進します。
- 電子掲示板などで省エネの啓発を実施します。



用紙使用量の削減【自己評価 ◎】

- 用紙両面利用や印刷していないウラ面の用紙の再利用を推進し、使用量の節減に取り組めます。



地域貢献【自己評価 ○】

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いつつ、キャンパスの豊かな自然の中にあるテニスコートを活用し、地域の子供たちとともにテニスを通して基礎的な体力や調整力(コーディネーション能力)を高め、構内に生息するシカとともに自然の中で親しみながら、ならやまオープンセミナー(公開講座)などを積極的に取り組みます。



奈良SDGs学び旅における「SDGs」についての講義【自己評価 ○】

- SDGsの達成には、持続可能な社会づくりに能動的に参加する市民の育成が鍵になると考え、生涯学習におけるESDの推進のために、産官学連携のコンソーシアム「奈良新しい学び旅推進協議会」に参画し、従来の観光体験をSDGsを体験できるプログラムとして協議会の中心的役割を担います。



ゴミの一斉収集・植栽の剪定【自己評価 ○】

- キャンパスクリーンキャンペーンを年1回以上設け、教職員等による構内のゴミ収集を行い、環境美化を図ります。
- キャンパスの保存緑地を保持するためにも、定期的に既設樹木の剪定や草刈りを実施します。



◆ 2021年度の実施計画

■奈良教育大学の環境配慮の目標は、「エネルギーの使用量・温室効果ガスの削減」、「上水使用量の節減」、「用紙使用量の削減」、「地域貢献」、「奈良SDGs学び旅における「SDGs」について」「ゴミの一斉収集・植栽の剪定」の項目を実施計画として進めます。



エネルギーの使用量・温室効果ガスの削減

- エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令に従い削減します。
- 老朽化した空調機器を更新するときは、高効率機器の採用を推進します。
- 照明器具を更新するときは、LED化を中心に省エネに配慮した機器の導入を推進します。
- 電子掲示板などで省エネの啓発を実施します。



上水使用量の節減

- 水回り(トイレ・手洗い場)などを改修(更新)するときは、節水器具の導入を推進します。
- 電子掲示板などで省エネの啓発を実施します。



用紙使用量の削減

- 用紙両面利用や印刷していないウラ面の用紙の再利用を推進し、使用量の節減に取り組みます。



地域貢献

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いつつ、キャンパスの豊かな自然の中にあるテニスコートを活用し、地域の子供たちとともにテニスを通して基礎的な体力や調整力(コーディネーション能力)を高め、構内に生息するシカとともに自然の中で親しみながら、ならやまオープンセミナー(公開講座)などを積極的に取り組みます。



奈良SDGs学び旅における「SDGs」についての講義

- SDGsの達成には、持続可能な社会づくりに能動的に参加する市民の育成が鍵になると考え、生涯学習におけるESDの推進のために、産官学連携のコンソーシアム「奈良新しい学び旅推進協議会」に参画し、従来の観光体験をSDGsを体験できるプログラムとして協議会の中心的役割を担います。



ゴミの一斉収集・植栽の剪定

- キャンパスクリーンキャンペーンを年1回以上設け、教職員等による構内のゴミ収集を行い、環境美化を図ります。
- キャンパスの保存緑地を保持するためにも、定期的に既設樹木の剪定や草刈りを実施します。

5 環境にかかわる活動 Environmental Activities

◆ 環境負荷データ・エネルギーの使用状況比較

■高畑団地（大学(教育学部)+附属小学校+附属幼稚園）

【電力】(kWh) (大学(教育学部)+附属小学校+附属幼稚園)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	161,400	159,090	179,477	211,263	178,370	151,528	169,285	176,197	193,963	214,183	190,564	167,095	2,152,415	
平成28年度	152,158	157,465	176,677	211,513	178,187	165,169	168,670	177,887	185,169	202,084	183,242	170,412	2,128,633	98.9%
平成29年度	154,373	154,259	172,028	196,494	167,037	148,773	165,135	176,081	196,354	204,579	184,068	151,784	2,070,965	97.3%
平成30年度	143,673	153,382	168,068	205,715	166,782	144,775	162,673	169,664	174,033	193,365	175,699	150,361	2,008,190	97.0%
令和元年	147,500	148,003	164,922	189,502	173,768	157,796	159,932	161,532	184,825	192,981	179,321	149,249	2,009,331	100.1%
令和2年	113,502	100,834	121,596	140,736	159,233	141,720	146,922	154,131	153,042	189,452	168,788	153,042	1,742,998	86.7%
令和3年	141,046	125,030	151,117	186,809	155,565	145,512	156,610	0	0	0	0	0	1,061,689	114.8%

【水道】(m³) (大学(教育学部)+附属小学校+附属幼稚園)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	1,785	3,185	3,077	4,750	5,080	3,672	2,415	2,554	2,624	2,036	2,338	1,846	35,362	
平成28年度	1,471	1,731	3,802	4,357	4,569	3,591	2,497	2,470	2,256	1,734	1,939	1,804	32,221	91.1%
平成29年度	1,538	1,971	3,835	5,278	6,442	4,483	2,424	2,440	2,575	2,316	2,489	2,283	38,074	118.2%
平成30年度	2,119	2,425	3,946	5,051	4,740	5,215	1,946	2,098	1,941	1,406	1,566	1,629	34,082	89.5%
令和元年	1,429	1,642	5,441	6,682	5,607	4,132	2,060	1,976	1,777	1,602	1,521	1,322	35,191	103.3%
令和2年	1,481	974	1,019	2,700	1,598	1,684	1,600	1,736	1,660	1,536	1,983	1,660	19,631	55.8%
令和3年	1,730	1,669	2,636	3,206	1,909	1,855	1,439	0	0	0	0	0	14,444	130.6%

【ガス(一般)】(m³) (大学(教育学部)+附属小学校+附属幼稚園(空調含む))

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	1,688	1,382	1,409	920	620	1,101	1,603	2,756	2,477	4,069	3,900	2,376	24,301	
平成28年度	1,513	1,304	1,214	928	638	950	1,323	2,330	2,664	3,358	3,068	1,808	21,098	86.8%
平成29年度	1,598	1,319	1,337	822	602	1,015	1,475	2,570	2,778	3,290	2,880	881	20,567	97.5%
平成30年度	1,306	1,454	1,371	1,107	674	816	1,520	2,078	2,180	3,189	3,073	1,897	20,665	100.5%
令和元年	1,604	1,310	1,288	1,210	632	890	1,215	1,778	2,471	2,632	2,641	1,438	19,109	92.5%
令和2年	526	72	460	472	299	596	698	1,161	2,001	2,647	2,086	1,512	12,530	65.6%
令和3年	937	573	701	571	188	620	729	0	0	0	0	0	4,319	138.3%

【ガス(空調)】(m³) (大学(教育学部)+附属小学校)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	4,387	4,292	8,756	29,016	17,689	4,882	2,596	11,451	20,400	29,002	20,862	10,943	164,276	
平成28年度	1,819	4,093	14,621	28,557	26,791	12,914	3,824	14,988	24,577	29,614	24,630	15,398	201,826	122.9%
平成29年度	3,237	5,235	15,770	30,976	24,591	7,867	4,768	20,855	30,604	31,752	23,473	6,088	205,216	101.7%
平成30年度	3,245	3,241	8,986	33,834	28,335	10,520	3,524	9,316	18,842	28,689	23,934	14,675	187,141	91.2%
令和元年	7,936	4,409	9,924	23,047	30,318	20,017	6,595	9,356	21,452	25,719	22,415	13,709	194,897	104.1%
令和2年	6,654	870	6,551	12,539	25,590	16,040	4,041	10,692	23,354	30,665	24,004	15,206	176,206	90.4%
令和3年	4,844	1,605	10,422	23,876	21,447	12,204	9,313	0	0	0	0	0	83,711	115.8%



◆ エネルギーの使用状況

■高畑団地（大学(教育学部)+附属小学校+附属幼稚園)



電力

- 電力使用量削減のため、全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2020年度(令和2年度)は、2015年度(平成27年度)より進めている照明器具のLED化、空調設備等の更新により高効率化を推進しています。また省エネ活動を踏まえた取り組みとして、年度ごとに仕様策定委員会を開催し、電力の節電等に向けて契約電力と予定使用電力量の精査・検討を行っています。
- コロナ禍の影響により2020年度(令和2年度)は、2019年度(令和元年度)に比べ、約13%の使用量が減少しました。



上水

- 節水対策により水の使用量削減に努めています。
- 2016年度(平成28年度)より各所便所の改修を順次進めており、節水対策に対応した自動水栓の改修を行っています。
- コロナ禍の影響により2020年度(令和2年度)は、2019年度(令和元年度)に比べ、約48%の使用量が減少しました。



井水

- 体育館便所において上水ではなく、井水を洗浄水として利活用しています。



都市ガス(一般)

- ガス使用量削減について全学的な省エネ活動を推進しています。
- コロナ禍の影響により2020年度(令和2年度)は、2019年度(令和元年度)に比べ、約7%の使用量が減少しました。



都市ガス(空調)

- ガス使用量削減について全学的な省エネ活動を推進しています。
- 老朽し利用ができなくなった空調設備を高効率化へ順次更新するとともに年間を通じて省エネ活動(冷房時の室温の目安は28℃、暖房時の室温の目安は20℃:環境省推奨)を実施しました。
- コロナ禍の影響により2020年度(令和2年度)は、2019年度(令和元年度)に比べ、約14%の使用量が減少しました。

5 環境にかかわる活動 Environmental Activities

◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



大学電力(kWh)

大学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	143,460	142,120	154,747	169,473	166,140	131,376	151,625	157,127	174,032	162,653	166,384	146,525	1,917,665	
平成28年度	136,288	140,325	151,477	167,503	165,497	143,559	149,320	159,047	163,219	178,064	156,392	147,722	1,877,413	97.9%
平成29年度	132,843	136,329	143,970	172,414	153,697	126,513	145,135	155,571	173,194	179,609	159,208	133,314	1,810,605	96.4%
平成30年度	122,226	138,908	140,657	160,585	153,402	123,343	141,673	148,074	153,823	170,095	151,848	129,231	1,753,708	96.9%
令和元年度	129,810	131,263	140,322	165,093	161,258	136,346	140,032	143,162	164,135	170,101	158,181	135,479	1,735,381	101.2%
令和2年度	102,922	80,604	103,086	119,786	146,003	117,810	125,892	134,911	130,867	166,342	144,068	139,862	1,513,148	85.2%
令和3年度	125,308	108,310	123,870	164,832	140,223	124,362	134,910						921,515	114.3%

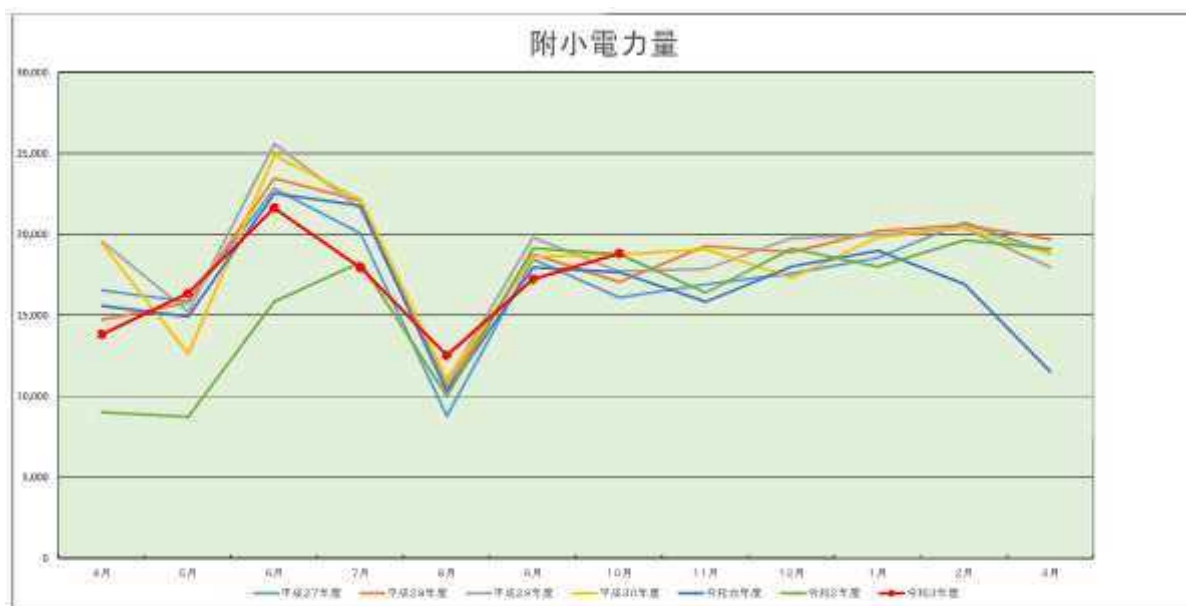


附中電力(kWh)

附中	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	7,216	7,295	10,996	11,395	9,444	11,761	8,109	9,594	9,405	13,630	11,040	7,842	117,338	
平成28年度	7,286	11,224	11,892	13,497	9,007	14,938	8,634	9,908	10,854	13,319	12,502	8,942	132,009	112.5%
平成29年度	7,581	8,085	11,724	14,192	8,849	13,189	9,705	9,601	12,164	13,853	12,658	8,586	131,089	99.3%
平成30年度	6,782	7,836	11,396	13,087	8,549	13,189	9,705	9,901	12,164	13,853	9,581	8,586	124,745	95.2%
令和元年度	7,489	6,236	10,776	14,230	11,334	16,007	8,887	8,904	12,130	13,693	11,870	6,192	121,770	102.4%
令和2年度	4,225	3,513	9,191	12,389	11,053	13,707	8,025	8,748	8,303	14,243	11,861	8,303	115,568	90.5%
令和3年度	8,882	7,032	11,583	13,375	10,682	13,387	9,442						71,764	115.5%



◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



附小電力(kWh)

附小	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	16,540	15,830	22,810	20,060	8,710	18,460	16,690	16,300	17,560	18,550	20,720	16,840	211,150	
平成28年度	14,720	15,700	23,460	22,060	10,510	16,780	17,550	19,270	14,900	20,210	20,570	19,690	221,000	104.7%
平成29年度	19,580	18,220	25,590	21,570	10,840	19,800	17,700	17,860	18,780	19,970	20,380	17,860	226,230	102.4%
平成30年度	19,437	12,614	24,391	22,140	11,020	18,630	16,740	19,060	17,350	19,810	20,330	16,790	222,842	98.5%
令和元年度	15,580	14,920	23,520	21,770	10,280	17,950	17,680	15,840	18,010	18,980	18,930	11,510	201,960	90.6%
令和2年度	8,010	8,720	15,840	18,270	10,020	19,140	18,770	15,400	19,110	18,020	19,640	19,110	192,010	95.1%
令和3年度	13,910	16,360	21,614	17,937	12,593	17,220	16,520						116,274	118.6%

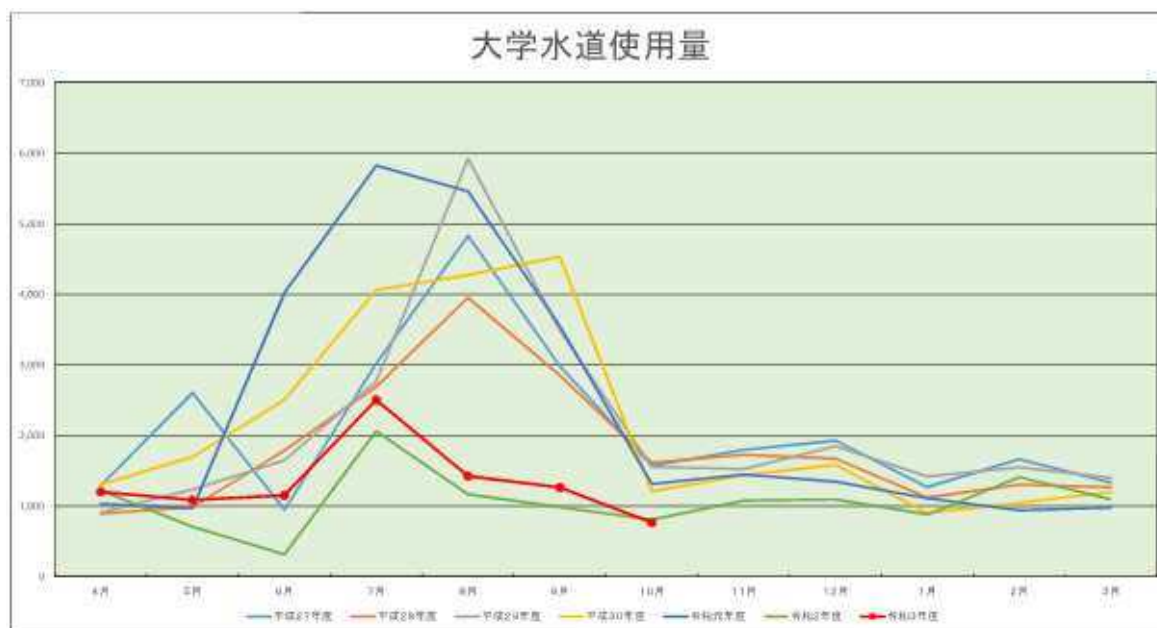


附幼電力(kWh)

附幼	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	1,400	1,140	1,920	1,730	1,460	1,690	1,570	2,170	2,350	2,880	3,460	1,730	23,000	
平成28年度	1,150	1,380	1,740	1,950	2,180	2,830	2,300	2,570	3,050	3,810	4,280	3,000	30,220	128.1%
平成29年度	1,950	2,100	2,460	2,510	2,310	2,480	2,300	2,650	2,400	5,090	4,480	2,510	34,130	112.9%
平成30年度	2,010	2,140	2,520	2,390	2,310	2,950	2,260	2,510	2,810	3,470	3,480	2,340	31,840	92.7%
令和元年度	2,110	1,820	2,080	2,840	2,230	3,520	2,240	2,530	2,880	3,380	4,210	2,080	31,990	101.1%
令和2年度	1,570	1,510	2,870	2,880	3,230	4,770	2,280	2,820	3,070	5,110	5,080	3,070	37,840	118.3%
令和3年度	1,930	2,280	3,630	4,040	2,820	3,930	3,180						21,900	117.2%

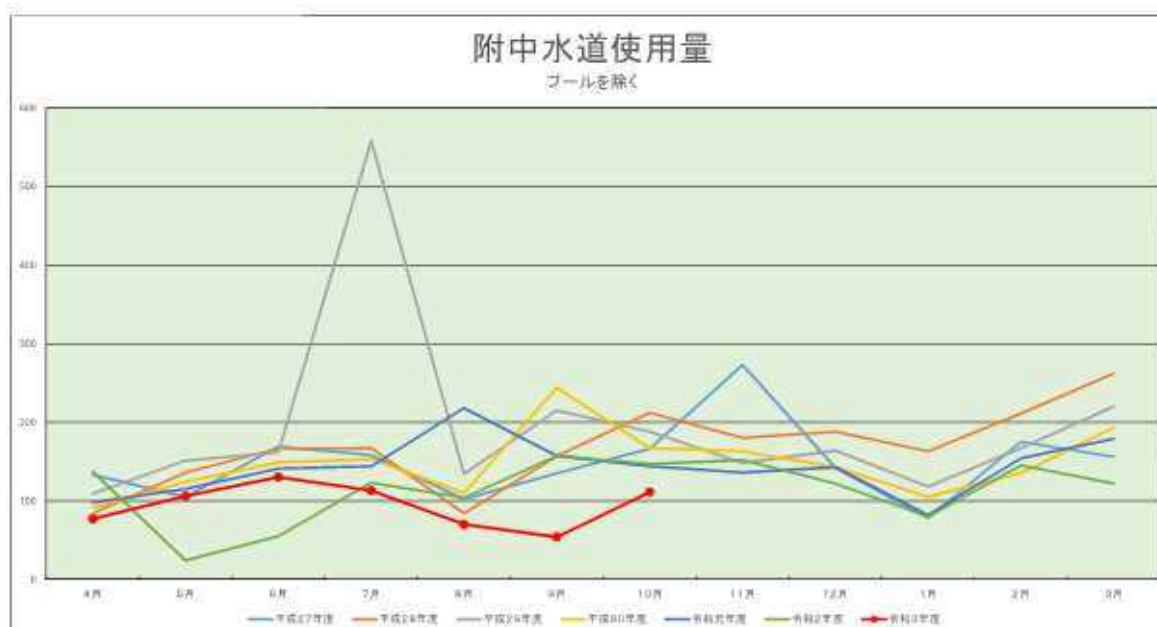
5 環境にかかわる活動 Environmental Activities

◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



大学水道 (m³)

大学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	1,290	2,608	948	3,022	4,831	2,983	1,572	1,788	1,929	1,268	1,665	1,333	25,247	
平成28年度	822	868	1,783	2,884	3,353	2,851	1,814	1,728	1,875	1,119	1,303	1,268	21,874	86.6%
平成29年度	907	1,234	1,849	2,789	5,923	3,486	1,555	1,526	1,848	1,420	1,559	1,402	25,268	115.5%
平成30年度	1,304	1,699	2,508	4,081	4,275	4,534	1,209	1,439	1,587	900	1,044	1,291	25,759	101.9%
令和元年度	1,031	970	4,024	5,825	5,459	3,532	1,314	1,448	1,347	1,111	940	982	28,003	108.7%
令和2年度	1,223	708	315	2,061	1,188	865	809	1,077	1,295	881	1,410	1,095	12,825	45.8%
令和3年度	1,201	1,086	1,153	2,594	1,425	1,264	787						9,400	129.4%

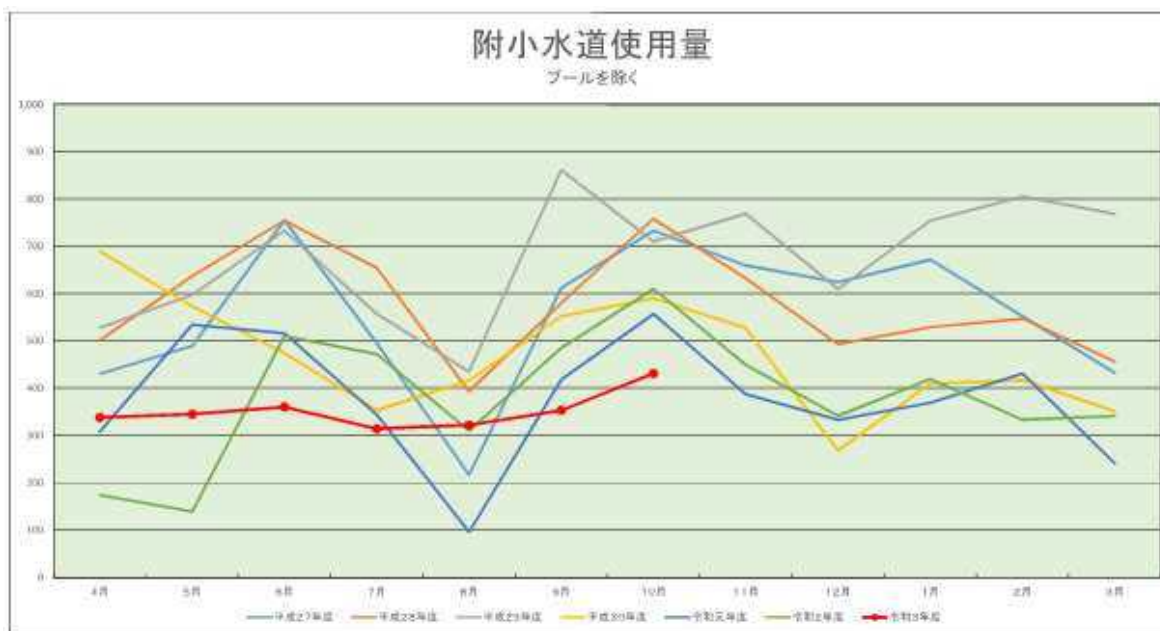


附中水道 (m³)

附中	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	133	105	189	158	102	135	188	273	142	78	175	156	1,792	
平成28年度	64	138	186	167	64	157	212	180	188	163	211	262	2,010	112.2%
平成29年度	109	101	182	558	134	215	188	146	164	118	167	220	2,334	116.1%
平成30年度	81	324	149	103	110	244	167	163	143	105	135	198	1,777	76.1%
令和元年度	80	115	141	144	218	157	144	136	143	82	154	178	1,711	96.3%
令和2年度	137	24	58	123	104	157	147	152	122	80	145	122	1,388	80.0%
令和3年度	77	708	130	113	10	94	131						681	88.5%

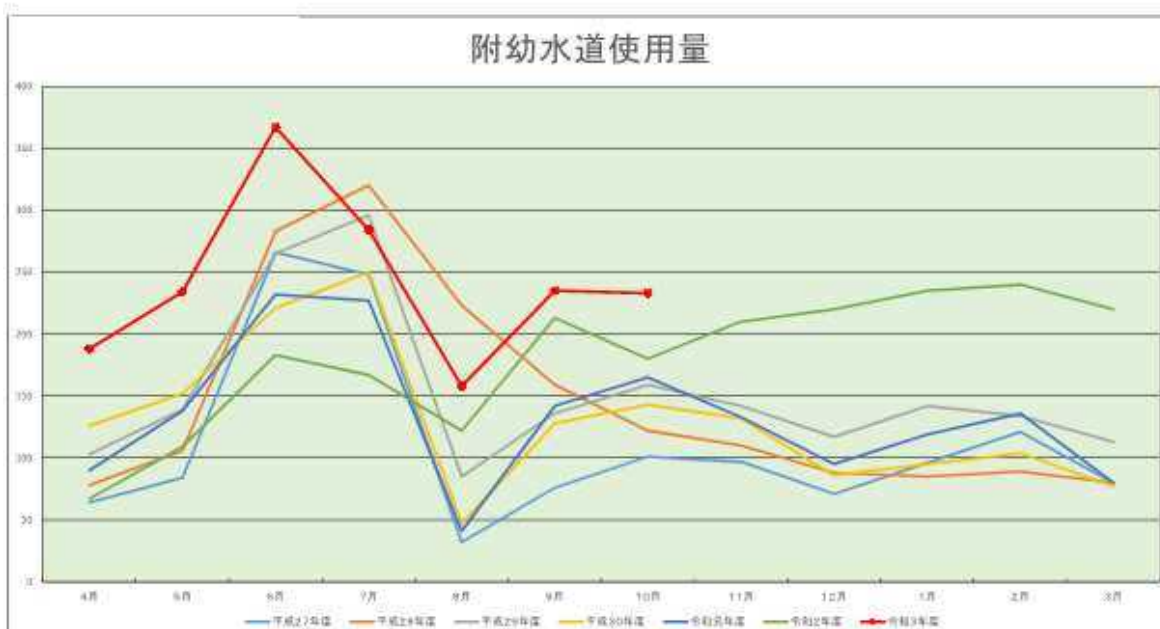


◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



附小水道 (m³)

附小	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	430	469	755	495	217	612	733	659	624	672	552	432	6,670	
平成28年度	501	437	754	854	393	590	758	632	493	529	547	498	6,934	104.0%
平成29年度	528	597	733	557	435	861	710	768	609	734	805	768	8,126	117.2%
平成30年度	689	573	474	353	416	352	590	527	268	410	417	351	5,620	69.2%
令和元年度	308	534	516	344	86	418	557	387	333	369	431	241	4,534	80.7%
令和2年度	174	133	510	472	310	495	610	449	341	418	333	341	4,593	101.1%
令和3年度	338	345	350	318	322	353	431						2,463	91.2%



附幼水道 (m³)

附幼	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	64	84	286	248	52	76	101	97	71	36	121	80	1,336	
平成28年度	78	106	283	329	223	159	122	110	88	85	89	80	1,743	130.5%
平成29年度	100	138	265	296	85	136	159	142	117	142	134	113	1,831	105.0%
平成30年度	126	152	221	250	47	328	143	132	86	95	104	77	1,561	85.3%
令和元年度	90	138	232	227	41	142	185	132	95	119	138	80	1,598	102.4%
令和2年度	67	109	183	167	122	213	180	210	230	238	240	220	2,166	135.5%
令和3年度	186	204	287	264	159	235	233						1,699	163.2%

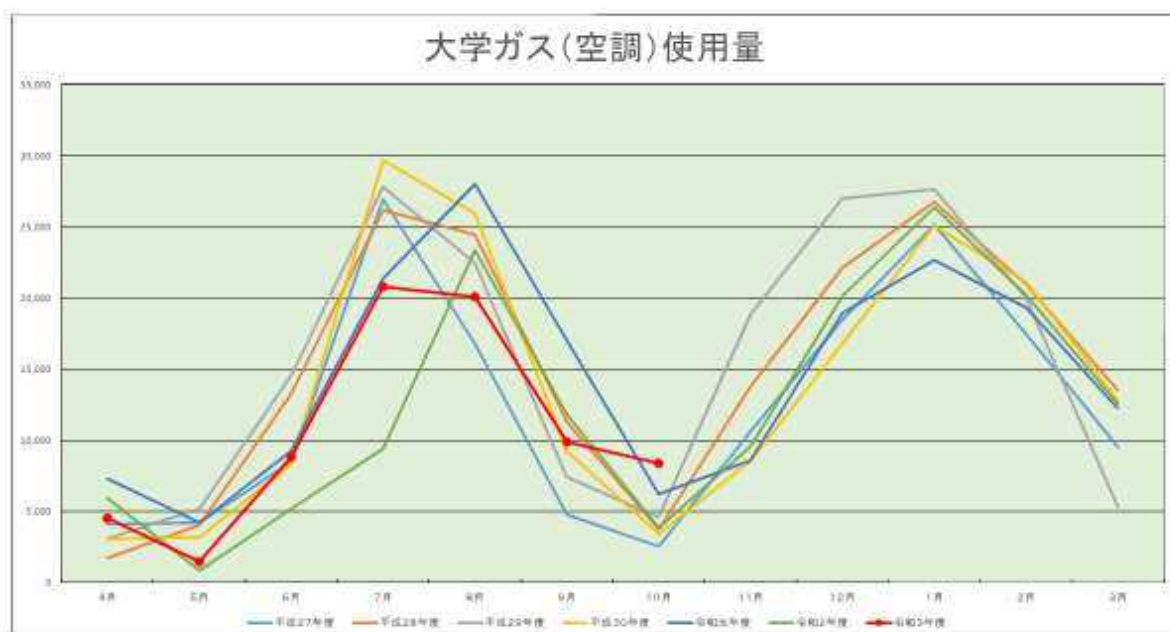
5 環境にかかわる活動 Environmental Activities

◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



大学ガス(一般)(m³)

大学(一般)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	1,124	851	862	805	555	630	1,040	2,033	2,112	3,021	2,326	1,870	17,852	
平成28年度	1,026	628	795	803	557	623	827	1,750	2,221	2,823	2,155	1,479	15,780	88.4%
平成29年度	1,110	848	858	701	539	610	1,028	1,853	2,258	2,457	1,974	743	14,976	94.9%
平成30年度	1,009	807	873	797	576	476	1,046	1,525	1,718	2,384	2,027	1,280	14,680	97.9%
令和元年度	1,249	860	818	876	588	503	795	1,276	1,875	1,888	1,800	1,206	13,714	93.5%
令和2年度	444	57	64	78	58	82	251	450	1,303	1,888	1,177	672	8,898	50.3%
令和3年度	575	185	144	143	92	108	284						1,458	144.4%

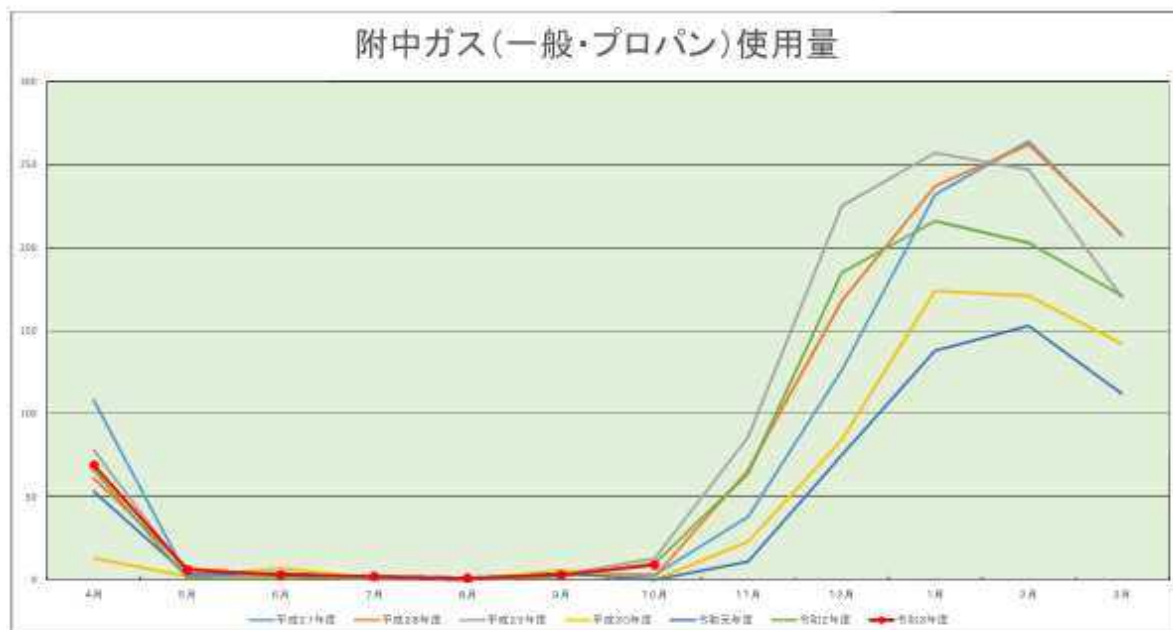


大学ガス(空調)(m³)

大学(空調)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	4,103	4,221	8,518	26,304	18,789	4,763	2,046	10,621	18,485	20,167	17,473	9,029	149,203	
平成28年度	1,729	4,051	13,291	26,788	24,470	11,324	3,752	13,791	22,152	26,771	20,973	13,518	181,999	122.0%
平成29年度	3,001	5,193	14,587	27,824	22,450	7,411	4,694	18,863	27,014	27,059	19,973	5,284	183,965	101.1%
平成30年度	3,091	3,187	8,315	29,692	25,968	9,252	3,434	8,575	18,304	25,086	21,115	12,795	167,324	91.0%
令和元年度	7,300	4,224	8,276	21,386	28,028	17,033	8,228	8,587	18,957	22,673	19,346	12,345	175,265	104.8%
令和2年度	5,939	850	5,192	9,411	21,384	11,842	3,844	9,592	20,181	28,384	20,732	12,581	140,364	85.2%
令和3年度	4,524	1,474	8,628	20,308	20,085	2,883	8,384						74,015	122.5%

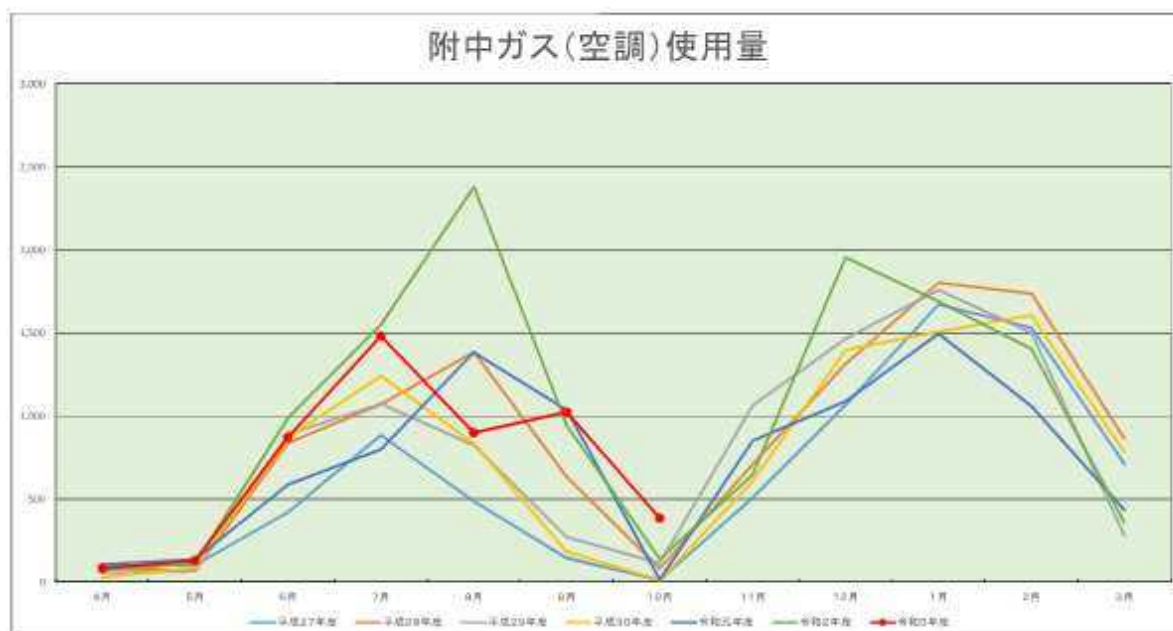


◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



附中ガス(一般・プロパン)(m³)

附中(一般)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	106	2	4	1	1	3	3	36	126	232	264	207	969	
平成28年度	61	7	2	2	0	4	2	66	168	237	262	208	1,019	103.0%
平成29年度	78	3	3	0	0	3	12	86	225	257	247	170	1,085	106.5%
平成30年度	13	2	7	1	0	6	0	23	84	174	171	142	623	57.4%
令和元年度	53	3	6	1	0	4	0	11	75	138	153	112	554	88.9%
令和2年度	66	1	1	2	1	2	10	64	165	236	203	171	822	166.4%
令和3年度	83	8	3	2	1	2	0						93	112.0%



附中ガス(空調)(m³)

附中(空調)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	95	104	421	385	488	144	13	509	1,067	1,672	1,531	711	7,640	
平成28年度	68	69	839	1,070	1,385	632	83	710	1,314	1,801	1,757	864	10,593	138.7%
平成29年度	57	66	890	1,073	825	271	114	1,064	1,466	1,759	1,502	278	9,366	88.4%
平成30年度	28	68	871	1,242	836	182	12	810	1,399	1,508	1,807	784	9,167	97.9%
令和元年度	107	137	568	800	1,383	1,036	16	851	1,090	1,496	1,060	434	8,998	98.2%
令和2年度	75	111	889	1,550	2,281	944	140	648	1,805	1,681	1,404	358	12,244	136.1%
令和3年度	83	130	873	1,481	899	1,024	381						4,875	78.8%

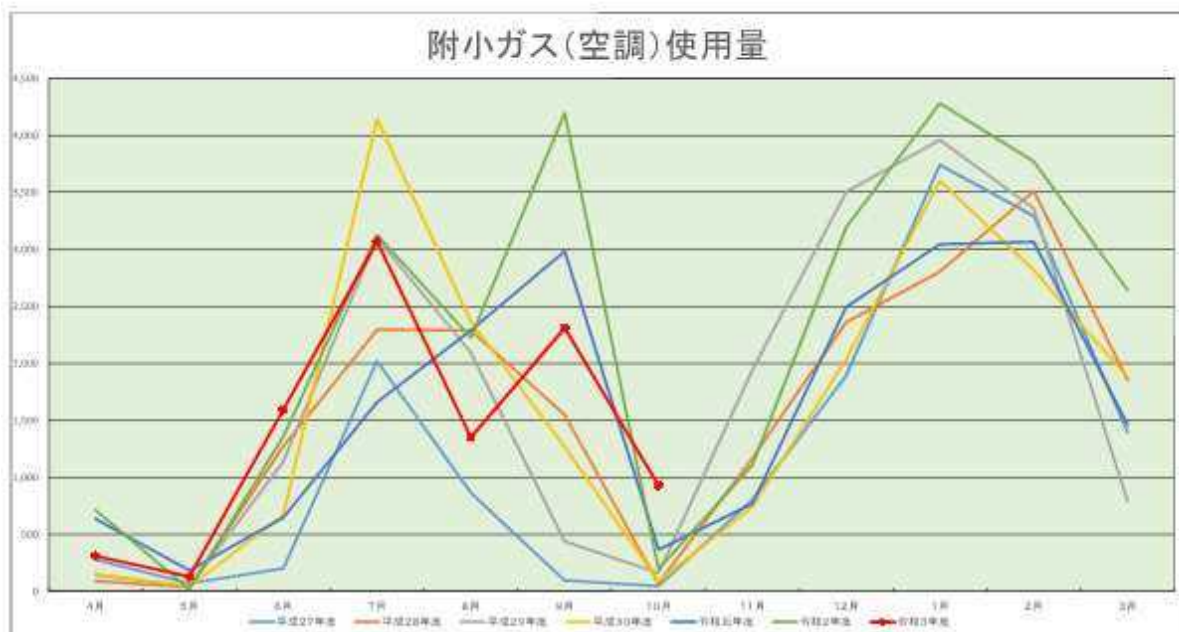
5 環境にかかわる活動 Environmental Activities

◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



附小ガス(一般)(m³)

附小(一般)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	528	506	517	100	93	443	527	624	297	886	824	323	5,774	
平成28年度	458	449	394	115	72	304	375	530	351	885	787	749	4,749	82.2%
平成29年度	452	441	452	112	55	382	421	818	378	674	783	105	4,849	102.1%
平成30年度	273	458	445	208	13	295	448	488	350	580	736	484	4,754	98.0%
令和元年度	303	428	424	232	14	311	390	428	415	536	574	104	4,157	87.4%
令和2年度	12	11	335	252	14	308	418	419	382	487	570	404	3,509	86.8%
令和3年度	392	402	488	184	21	330	372						2,057	152.4%

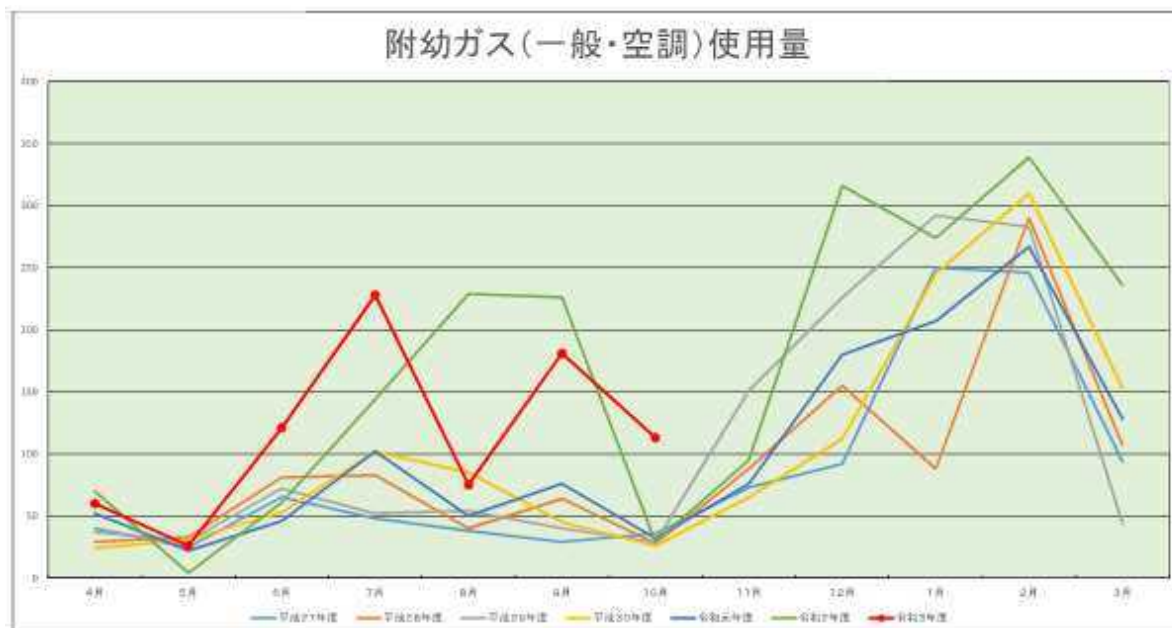


附小ガス(空調)(m³)

附小(空調)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	280	71	203	2,021	884	88	48	806	1,893	3,742	3,283	1,395	14,712	
平成28年度	81	38	1,274	2,296	2,295	1,549	70	1,168	2,362	2,805	3,513	1,853	19,310	131.3%
平成29年度	145	42	1,138	3,099	2,095	438	163	1,942	3,505	3,860	3,360	793	20,881	107.1%
平成30年度	154	44	871	4,142	2,767	1,268	30	743	2,038	3,603	2,819	1,880	19,817	95.8%
令和元年度	638	185	848	1,861	2,290	2,384	267	769	2,495	3,048	3,067	1,484	19,812	99.0%
令和2年度	715	20	1,358	3,128	2,228	4,188	197	1,109	3,193	4,281	3,772	2,845	28,842	136.9%
令和3年度	310	121	1,533	3,070	1,352	2,311	828						9,898	81.9%



◆ エネルギーの使用状況比較(大学ホームページ掲載:学内専用)



附幼ガス(一般・空調) (m³)

附幼(一般)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	対前年度比
平成27年度	40	25	65	48	38	29	30	73	92	230	246	34	1,008	
平成28年度	29	13	81	61	40	64	28	88	155	188	230	107	1,086	104.8%
平成29年度	37	30	72	52	54	40	29	151	226	292	283	44	1,310	120.6%
平成30年度	24	31	53	102	85	45	26	85	112	245	310	153	1,251	95.5%
令和元年度	52	22	46	102	50	76	32	76	180	297	267	128	1,238	99.0%
令和2年度	70	4	61	144	229	226	29	95	316	274	339	236	2,023	163.4%
令和3年度	60	26	121	228	75	181	113						804	105.4%

◆ クリーンキャンペーンの実施について(令和元年10月9日)

高畑団地では、学長を中心として教職員や学生とともに構内のクリーンキャンペーンを実施し、草刈り、窓拭きやゴミ拾いなどの作業を行い、全員が協力し合って、自分たちの力で快適な構内環境をつくり、明るく清潔な気持ちの良い構内にすることができました。

2020年度はコロナ禍に伴い、学生の入構制限をやむを得ず実施しましたので、クリーンキャンペーンの実施は見送ることとなりました。しかし、草木の刈り込みなどは保全業務として専門業者に依頼を行いました。



窓拭きの様子



草の刈り取りの様子



5 環境にかかわる活動 Environmental Activities

◆ SDGsの達成に関わるESDの推進

■SDGsの達成に関わるESDの推進

奈良教育大学では、大学の「3つの柱」(大学の特色)の1つに「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」を掲げ、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に関わるESDを推進しています。ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的とした教育活動です。

本学は、2007年に日本の大学として初めてユネスコスクールに認定され、その後、附属中学校が2008年、附属小学校が2014年、附属幼稚園が2018年にユネスコスクールとなりました。

本学では授業内容が、ユネスコスクールの研究テーマや設置目的・活動内容に合致する科目を「ユネスコスクール推奨科目(学部、修士課程)」として制定し、これらの科目の履修は学生向けESDティーチャー認証(後述)の要件にもなっています。

また、2014年には「奈良ESDコンソーシアム」を設置し、地域に根ざしたESD推進事業を展開しています(2017年度からは「近畿ESDコンソーシアム」に名称変更)。奈良教育大学を中心に、教育委員会、学校、博物館、NPO法人、企業などによって構成され、事務局は本学に置かれ、現在、本学学長がコンソーシアムの会長となっています。

■昨今の活動内容

1. ESDティーチャープログラム

文部科学省のユネスコ活動補助金「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」(2014年度～2016年度)、日本／ユネスコパートナーシップ事業において、「学校現場でESDの取組を適切に行い、指導計画を作成できる教員を育成する教員研修プログラムのあり方に関する調査研究」(2015年度)を受託し、ESDに関する教員研修プログラムである「ESDティーチャープログラム」を開発しました。

ESDティーチャープログラムには学生対象と現職教員対象の2つがあります。学生対象のプログラムは、座学だけでなく、演習や実践、そしてESD学習指導案の提出が求められます。一方、現職教員向けのプログラムには、「ESDマスター」、「ESDスペシャリスト」といった上級コースが設定されており、指導案作成だけでなく、授業実践や研究発表が求められています。現職教員対象のプログラムは、北海道から沖縄まで、全国10カ所以上で実施してきました(2018年度～2021年度)。なお、本学学生が指導案を作成する際、現職教員向けのプログラムに参加している教員から指導助言を受けることができる仕組みになっています(本学の3つの柱の1つ「教員養成と教員研修の融合」)。

ESDティーチャープログラム

- ① SDGsの理解促進
- ② ESDの学習理論の理解促進
- ③ 優良実践事例の分析と授業構想案の作成
- ④ 授業構想案の相互検討
- ⑤ ESD学習指導案の相互検討



ESDに取り組む教員に求められる資質能力

- ① ESD連続セミナー等への5回以上の参加と毎回のミニレポート作成
- ② ESD学習指導案の作成

ESDティーチャーの認証

- ③ ESD連続セミナー等への7回以上の参加と毎回のミニレポート作成
- ④ ESDティーチャー受講者の指導
- ⑤ ESD授業実践と実践事例の作成

ESDマスターの認証

- ⑥ ESD連続セミナー等への7回以上の参加と毎回のミニレポート作成
- ⑦ ESDティーチャー・マスター受講者の指導
- ⑧ 研究会・学会等での授業実践の発表

ESDスペシャリストの認証



◆ SDGsの達成に関わるESDの推進

■ 昨今の活動内容

2. ユネスコクラブ

ESDを実践できる教員になることやESDを研究することを目的に、2021年に設立されたクラブで、現在103名の学生が所属しています。子どもに関わる活動、災害復興支援ボランティア等を実施しており、それらの活動はESDティーチャープログラムに組み込まれています。

また、大学主催の行事にも積極的に参加し、1例として、令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」ユネスコスクールオンライン近畿地方大会では、学生たちがファシリテーターになって、3日間に渡って子ども会議を開催し、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成しました。クラブの代表学生は、隔週で実施される近畿ESDコンソーシアム運営委員会に陪席しています。このように本学がESD・SDGsに関する事業を展開する上で、ユネスコクラブは重要な役割を果たしています。また、こうした事業参加を通して、学生たちはESDを実践できる能力を培っています。

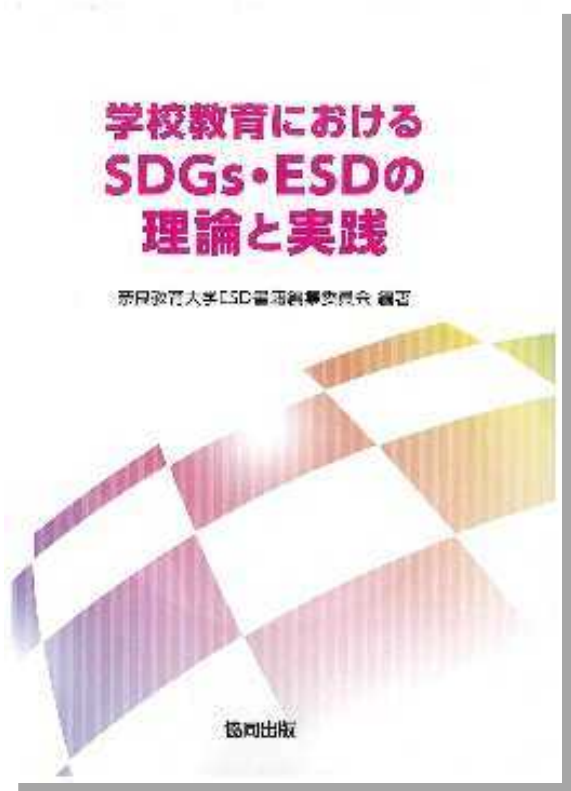
3. 国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)への参加

2020年に国連大学サステナビリティ高等研究所が「個々の大学でのSDGsの取組み強化」、「国際社会での活動が期待できる人材の育成」を目指して設立したもので、本学を含めて28大学が参加しています。教育大学は本学のみです。

4. 『学校教育における SDGs・ESD の理論と実践』の刊行(2021年3月)

大学と3つの附属学校園の教員(55人)が共著者となって、ESDに関するこれまでの研究・教育の成果を、テキストとしてまとめたもので、全367ページの大著となっています。

https://www.naraedu.ac.jp/news/2021/04/_esd_sdgsesd.html

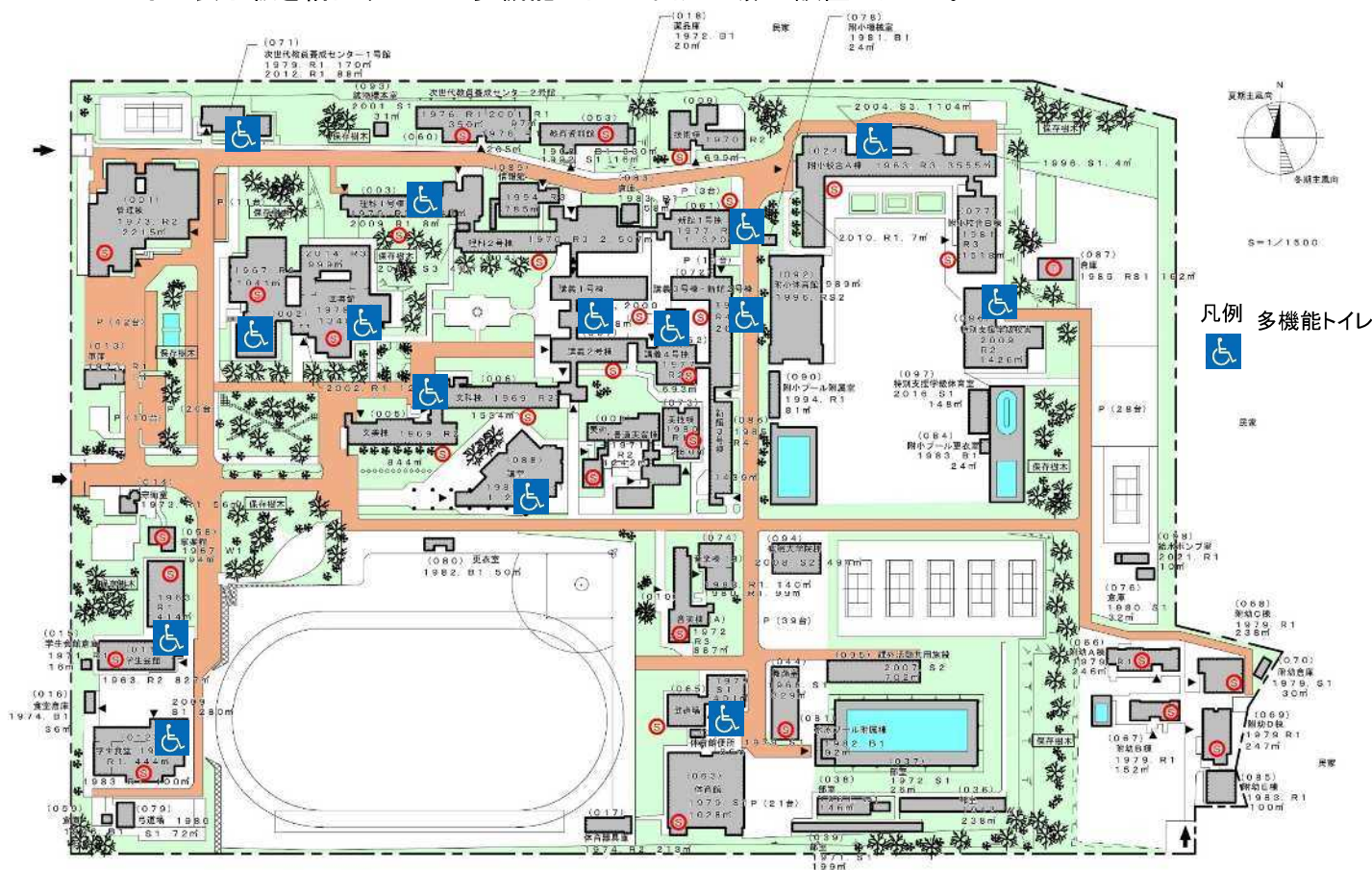


6 ダイバーシティにかかわる活動 Activities related to Diversity

◆ ジェンダー平等の実現にむけて



■ 本学は令和3年4月より、ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言を行い、大学に属するすべての教職員・学生が国籍や性別などの違いにとらわれず、お互いの経験や能力、考え方などを尊重し、活かし創り出し続ける取り組みの最初の一步として、現在ある多機能トイレに男女共白色のピクトサインと「ALL GENDER どなたでもご自由にお使いください」と記載した色の区別のない表示板を構内すべての多機能トイレの出入口扉に設置しました。



● 構内の多機能トイレ (赤丸印の範囲に表示板を追加)

高畑団地 構内配置図



学生食堂



講義4号棟



次世代1号館



文科棟



図書館西側



講堂



すべての多機能トイレに上記の表示板を追加



◆ ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言

奈良教育大学は、「奈良教育大学の3つの柱」として、「人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究」「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」「教員養成と教員研修の融合」を掲げています。とりわけ、本学は附属学校園を含めてユネスコスクールに認定されており、環境、文化、平和、人権等、「持続可能な開発のための教育」(ESD)に関わるさまざまな取組を展開し、教育の面からSDGsの達成を目指しています。

ESDの基盤となる人権は、1948年の世界人権宣言により国際連合においてその基本的な理念が位置づけられ、世界の誰もが有する「普遍性」とともに、ジェンダー、人種、民族、宗教、障がい、言語・文化などに関わる「多様性」を大切にしています。「多様性」は、このように、個々人の尊厳と人権の保障を踏まえた、持続可能な社会の基本的な理念を示すものとなっています。それは、それぞれの差異を踏まえつつ、平等・公平・公正な対応を求める理念でもあります。

「多様性」については、理念を理解することに留まらず、組織を構成するすべての人々によって、それぞれの差異や異なる価値観を認めるための「行動」が伴わなくてはなりません。また、教育大学においては、それを実現していくための「教育」も重要です。そこで、奈良教育大学では、「多様性」の理解とその上に立つ行動及びそのための教育を推進することとし、それを奈良教育大学における「ダイバーシティの推進」と定義します。

そして、奈良教育大学は、そこに関わる多様な人々を誰一人取り残すことなく包み込み、異なる経験・能力・考え方などの結集や融合によって、新たな知や価値を創造していく組織であらねばなりません。その包摂性を、奈良教育大学における「インクルージョン」と定義します。

以上により、奈良教育大学は、ダイバーシティ・インクルージョンを推進し、大学構成員としての学生、教職員、附属学校園における幼児・児童・生徒及びその保護者全員が、安心して集い、学び、研究し、働き、参画できる場とします。また、その推進に貢献できる教員の養成・研修を行います。そこで、ここに「奈良教育大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」を掲げ、以下に取り組むこととします。

- 1.いかなるハラスメント・人権侵害も容認しません。すべての大学構成員を誰一人取り残すことなく包み込み、互いにそれぞれの多様性をありのままに認め合い、尊重し合う大学であることを共通の価値とします。
- 2.その価値の共有のため、意識の啓発に努め、相互の対話を大切にします。
- 3.多様な背景をもつ大学構成員が、奈良教育大学で学び、研究し、働き、参画する上で必要な環境の改善に努めます。
- 4.「ダイバーシティ・インクルージョン推進」に関する知見と洞察を、「奈良教育大学の3つの柱」の実現と、教員の養成・研修に関する内容・方法の樹立に生かし、ともに実践していきます。

2021年(令和3年)4月
奈良教育大学

6 ダイバーシティにかかわる活動 Activities related to Diversity

◆ Statement on the Promotion of Diversity and Inclusion from Nara University of Education

The three core principles of Nara University of Education are: the pursuit of education through dialogue with people, the environment, and our cultural heritage; the cultivation of education professionals capable of contributing to the creation of a sustainable society; and the integration of teacher education and in-service teacher training. The university, including its affiliated educational institutions (kindergarten, elementary school, and junior high school), has been collectively accredited as a member of the UNESCO Associated Schools Project Network (ASPnet). It is advancing a variety of initiatives in areas of Education for Sustainable Development (ESD), such as the environment, culture, peace, and human rights, with the aim of achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) from an educational standpoint.

ESD is founded on human rights. The basic principles of human rights, as formulated by the United Nations in the Universal Declaration of Human Rights of 1948, emphasize that every person in the world has rights, but also that diversity is valued, such as concerning gender, race, ethnicity, religion, disability, language, and culture. Diversity thus articulates the fundamental ideal of a sustainable society based on safeguarding the dignity and human rights of each and every individual. It is also an ideal that demands equal, fair, and impartial treatment taking into account individual differences.

Diversity is not simply an understanding of these principles: it must be accompanied by action to acknowledge the various differences and distinct values of all the people that make up an organization. In a university of education, it is important to achieve this through education itself. Nara University of Education thus defines the promotion of diversity as a commitment to promoting an understanding of diversity, as taking action based on that understanding, and as education to enable that action.

Nara University of Education must be an organization that creates new knowledge and forms of value through the accumulation and integration of different experiences, abilities, and ways of thinking, and that embraces all the diverse individuals associated with it without leaving anyone behind. This is how inclusion is defined at Nara University of Education.

In this way, Nara University of Education will promote diversity and inclusion and be a place where all members of the university community—students, faculty and staff, pupils of the university’s affiliated educational institutions, and parents—can feel safe to gather, learn, research, work, and participate. Moreover, the university will cultivate and conduct in-service training for teachers who are capable of contributing to promoting it. For these purposes the university adopts this Statement on the Promotion of Diversity and Inclusion and commits to the following initiatives.

1. We do not tolerate any form of harassment or violation of human rights. Our common values are to embrace all members of the university community without leaving anyone behind, and to have members acknowledge and respect one another’s diversity for what it is.
2. In order to share these values, we will work to raise awareness and foster dialogue.
3. We will work to furnish the environments that all members of our community, with their diverse backgrounds, require in order to learn, research, work, and participate at Nara University of Education.
4. We will apply and put into practice our knowledge and insights related to the promotion of diversity and inclusion in the realization of Nara University of Education’s three core principles and the establishment of content and methods of teacher education and in-service teacher training.

April 2021
Nara University of Education



◆ 奈良教育大学 推進多様性及包容性宣言

奈良教育大学提出的“奈良教育大学三个支柱”，指的是“通过与人、环境、文化遗产的对话对教育进行探索”“培育能为建构可持续发展社会做贡献的教师”“结合师资培育与教师进修”。特别是本校、包括附设教育机构（附属幼儿园、小学、初中）在内，被认定为“联合国教育科学及文化组织教科文组织联系学校网络”的成员，就展开环境、文化、和平、人权等与“可持续发展教育”(ESD)相关的各类活动，旨在教育领域里达成可持续发展目标(SDGs)。

ESD的基础是人权，1948年的联合国世界人权宣言对其基本理念做了定位。该基本理念非常珍视世界共同的“普遍性”，以及相关于性别、人种、民族、宗教、障碍、语言及文化等等的“多样性”(diversity)。“多样性”是在如此保障每个人的尊严与人权的基础上，呈现出可持续发展社会的基本理念。它同时亦是在各种差异的基础上追求平等、公平、公正待遇的理念。

“多样性”不应仅止于理念理解的层面，而必须伴随组织里所有成员的行动，以认同各种差异及不同的价值观。同时，教育大学还应肩负为实现此目标的“教育”责任。因此，奈良教育大学决定推行对“多样性”的理解和在此基础上的行动，以及相关的教育，并将其定义为奈良教育大学的“多样性的推進”。

而且，奈良教育大学通过包容与我校相关的多种多样的人群，一个都不能少，集结或融合不同的经验、能力和思维方式，应成为一个创造新知性、新价值的组织。这样的包容性就是奈良教育大学所定义的“inclusion”。

如上所述，奈良教育大学推行多様性及包容性，将使其成为所有成员---亦即大学生、教职员工以及附属教育机构的幼儿、儿童、学生和家长们都能够安心相聚、学习、研究、工作并参与相关活动的地方。同时，将实施师资培育及教师进修，以对上述活动的推進有所贡献。在此，我们提出“奈良教育大学推進多様性及包容性宣言”，并采取以下措施。

1. 我们不容许任何骚扰和人权侵犯。不放弃任何一位大学成员，关怀所有的人，彼此认同彼此的多样性、互相尊重，并把这些作为大学共通的价值观。
2. 为分享这种价值观，我们将努力提高认识、重视互相的对话。
3. 为让拥有不同背景的大学成员能够在奈良教育大学学习、研究、工作及参与活动，我们将努力改善相关环境。
4. 我们将把与“推进多様性及包容性”相关的见识和洞察力运用到“奈良教育大学三个支柱”的实现，以及与教师培育、进修相关的内容和方法的确立，两者齐头并进。

2021年（令和3年）4月
奈良教育大学



奈良教育大学
Nara University of Education



イメージキャラクター なつきょん(平成20年制定)

創立120周年を記念して平成20年10月1日に誕生したイメージキャラクター「なつきょん」。奈良のシンボルであるシカをモチーフに、教育大学の「育つ」「育てる」というイメージを角の新芽(ふたば)に表現しています。愛称の“なつきょん”は、大学の略称として親しまれている「奈教(なきょう)」に由来しています。



この資料は再生紙(古紙パルプ配合率80%以上)を使用しています。